

報道発表資料の配付日時 3月22日(金) 10時00分

発表項目 (行事名)	「北海道民泊事例集 一人とふれあい、地域とつながる」の公開について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>ふれあい民泊を通じた観光振興や地域活性化につなげるため、道内の住宅宿泊事業者による積極的な取組事例を紹介する「北海道民泊事例集 一人とふれあい、地域とつながる」を作成しました。</p> <p>○以下の「北海道民泊ポータルサイト」において公開 【URL】 <a href="http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/minpaku/cases_top.htm">http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/minpaku/cases_top.htm</a></p> <p>○紹介事例 4者</p>		
参考			

報道(取材)に当たってのお願い	住宅宿泊事業者の <u>地域に密着して積極的に取り組む姿を発信するのは、道では今回が初めて</u> です。民泊への理解を広め、健全な民泊を推進し、観光振興等につなげるため、多くの道民の皆様に御覧いただきたく、積極的な報道をお願いいたします。		
他のクラブとの関係	同時配付	(場所)	
	同時レク		

担当 (連絡先)	経済部観光局民泊G 参事 安彦 (26-584) / 主査 南出、主事 岩崎 (26-577) TEL 011-231-4111 (代表) 011-206-6596 (直通)		
-------------	---	--	--

# 北海道事例集

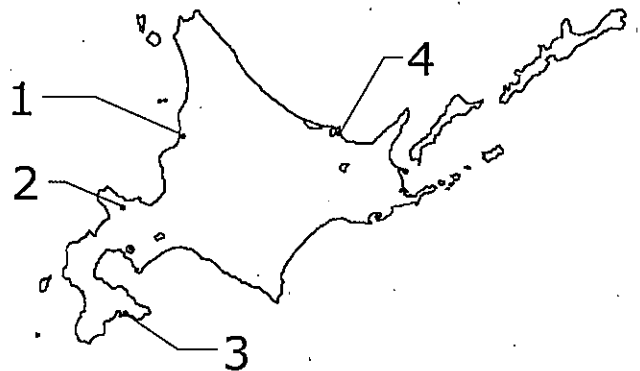
—人とふれあい、地域とつながる—



本事例集では、平成30年6月15日に施行された住宅宿泊事業法に基づき道内で住宅宿泊事業（民泊）を営む方の中から、民泊を活用し地域とふれあい、地域の活性化に取り組んでいる事例を紹介します。

## 目次

- 1…… 金野 郁子 さん ……小平町
- 2…… 前田 将克 さん ……仁木町
- 3…… 高田 鮎子 さん ……函館市
- 4…… 原口 智江 さん ……網走市



本事例集に関するお問い合わせ

〒060-8588

北海道札幌市中央区北3条西6丁目

北海道経済部観光局民泊グループ

電話番号 : 011-206-6597

F A X 番号 : 011-232-4120

北海道民泊ポータルサイト

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/minpaku/portal.htm>



北海道 民泊ポータル

検索

その先の、道へ。北海道  
Hokkaido.Expanding Horizons.

北海道  
民泊事例集

一人とふれあい、地域とつながる

平成31年3月



小平町

金野 郁子 さん

北海道民泊事例集 -人とふれあい、地域とつながる- 1

自宅にしながら「国際交流」



## 自己紹介



夫婦で「そば&カフェ からくれ」を営みながら、自宅を活用して民泊を始めました。

以前から「インターナショナルお楽しみ倶楽部」という団体を運営しており、節分やハロウィーンなどに合わせて、国際交流イベントを開催しています。イベントを始めたきっかけは、留萌管内の学校で外国語指導助手(A L T)として勤務している外国人の方々に、日本の文化や習慣を紹介しながら地域のみinnで楽しめる機会を作りたいと思ったことです。

他にも、講師を招いて英会話教室やアロマ講座、マナー講座なども行っています。お店の中でのコンサートや写真展、手芸品展示販売会を行ったりもしています。自分で興味があることや学んでみたいことを実践してきましたが、その中に民泊が加わったんです。

## 民泊を始めたきっかけ

海外旅行が好きで、これまで様々な国を訪れました。そうした中、アメリカで2週間ほど一般のお宅に泊めてもらったこともあります。ホストとじっくり交流できましたし、住宅事情やインテリア、習慣などのちょっとした違いをいくつも発見でき、とてもおもしろいなと思いました。

法律ができて、民泊ができるようになったのを知って、民泊ならば、自宅にしながら海外の方と交流ができるなと思いました。ちょうど、子ども達が巣立って自宅に空き部屋があったので、何か活用できないかと考えていましたし、勉強している英語を使う機会が増えたらいいなと思っていたときでした。

民泊を始めてから、観光や外国のニュースが気になるようになりました。外国人が日本のどんなところに興味を持っているかなど、メールマガジンなども活用して情報収集を心がけています。



## 民泊をやってみて…

小平ダムに興味があると言って韓国からやってきた方もいましたが、多くの方は稚内などへの中継地点として小平を選んでいるようです。小平にこれといった目的があるのではなく、ただ泊まればいいというような印象を受けます。

けれど、朝のそば打ち見学を楽しんでもらったり、町内のいろいろなスポットを案内してみると、「ただ泊まるだけだと思っていたのに、すごくいい経験をさせてもらった」と言っていました。「いっぱい宣伝しておくよ」と、SNSで小平町を紹介してくれる方もいます。それを誰かが見て、また小平に来てくれたら嬉しいです。



苦労と言えば…家の掃除ですかね(笑)。急なお客さんにも心地よく過ごしていただけるよう、一つ一つに気持ちを込めながら、小平での交流を楽しんでいます。あとは、もっと英会話を勉強したいので、時間を上手にやりくりしたいです。

### 旧花田家番屋

小平を代表する観光施設です。ニシン漁で栄えたこの地域の歴史を知ってもらうきっかけになればと思っています。

「ザ・ジャパン」という感じの建物なので、海外からの方にも興味を持っていただけます。

往時のやん衆の道具などが展示されているので、自分で伝えられる範囲で英語で説明します。例えば、魚などを背負って運ぶための道具「もっこ」なら「backpack」。



### タコ茹で見学

地元ならではの、知り合いのタコ箱漁師さんにご協力いただき、水揚げしたばかりのタコを浜小屋で茹でるところを見学してもらいました。

生きたタコを切って、洗って、茹でて。「小屋ごとに、塩加減や茹で加減が違うので、一軒ずつ味が異なるんだよ」といった話を聞きながら、獲れたて、茹でたての普段食べられないようないろいろな部位を試食してもらい、とても喜ばれました。

### ほかにも…

町内の農家さんがSNSにトウモロコシ収穫の様子を載せていて、お客さんから見に行きたいと言われたことがあります。残念ながら、時期が合わなくて見ることはできませんでしたが、このようなニーズもあるんだとわかりました。

そう考えると、まだ案内したことはありませんが、ミニトマトやお花の農家さん、ピザ窯を持っている方などもあるので、町内にもいろいろ見どころがありますね。

また、香港のテレビ番組で、留萌にある書店の取組が紹介されたのを見て来た方もいました。書店の店長と知り合いだったのでお連れしたところ、大変感動していただきました。店長も、外国から会いに来てくれたと喜んでいましたね。

以前は、どこを案内したら喜んでもらえるのかと悩みました。外国のように巨大な滝があるわけでも、古都のように文化遺産があちこちにあるわけでもないです。でも、オーストラリアからのお客さんが「雪景色を見たり、雪遊びをするだけでも楽しい」と言っていました。夕日や海をすぐ近くで見られるのも魅力。地元の人が気にとめないような何気ないものも観光資源になるのかもしれない。

### 今後は…

もう少し宿泊の募集を増やしたいと思います。また、案内できる場所を増やして、地域をもっとPRできるようにしたいです。見所を聞かれたら答えられるように、パンフレットなどで情報を集めています。

連泊して他の地域に足を伸ばすお客さんに地元のタクシーを紹介するとか、一緒にイベントに参加するなど、地域の方との交流をもっとやってみたいと思っています。



仁木町

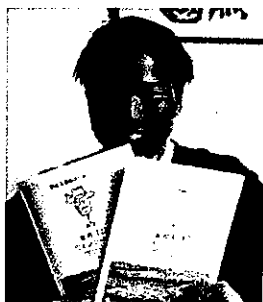
前田 将克 さん

北海道民泊事例集 -人とふれあい、地域とつながる- 2

「走る楽しみ」「とまる楽しみ」



### 自己紹介



出身は兵庫県。走るのが大好きで、「走っているいろいろなところに行ってみよう」と思っていました。19歳の時に、1年半かけて、ついにランニングで日本一周を達成しました。旅の道中で、一番思い出に残ったのが北海道。

走ることで出会えた北海道で、今度は「走る楽しみ」を伝える活動がしたいと思い、地域おこし協力隊に応募しました。ご縁があって、平成29年から仁木町で暮らしています。仁木町は、ワイナリーなどの産業が育ちつつあることや、新幹線や高速道路の延伸を控えていて、伸びる町だと思っています。

### 民泊を始めたきっかけ

地域おこし協力隊として働き始めて、業務のなかで空き家問題について調べ、空き家を活用したビジネスで自分が何か役に立てないかと模索していたとき、住宅宿泊事業法が施行されると知り、民泊に興味を持ちました。

するとちょうどいいタイミングで、町民の方から、持っている空き家を活用してほしいと町役場に相談があったんです。役場の方にも背中を押され、この若さで家持ちとなりました(笑)。家の登記や税金などの手続きも自分でしたので、いろいろ勉強になりましたね。

住宅を取得してからは、古い家財を片付けたり、仕事の合間に水回りなどを自分で少しずつリフォームしました。以前に就いていたリフォーム関係の仕事の経験を活かすことができました。

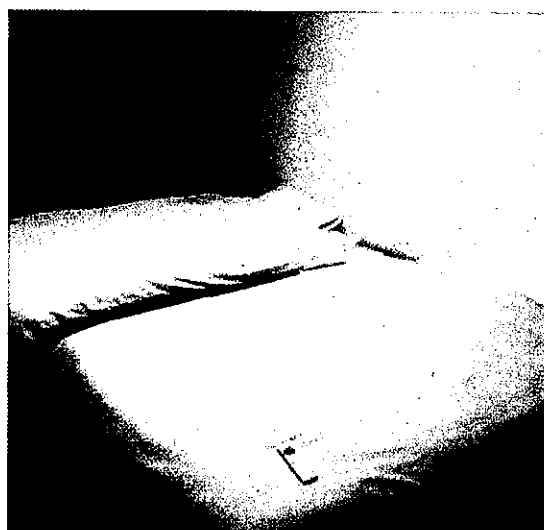


### 民泊をやってみて…

主に、町内への移住体験を行う方を受け入れています。印象に残っているのは、都会から来た方で、不眠に悩んでいたそうなのですが、ここに宿泊したときに「朝、すごく気持ちよく起きられた」と喜んでいました。「時間の流れがゆっくりに感じられて、心地よかった」そうです。僕にとって、夜に静かなこと、真っ暗なことはもう当たり前になっていたもので、新たな気づきでした。

他にも、一緒にワイナリー巡りをしたり、小樽市まで足を伸ばしてお寿司屋さんに行ったこともあります。地元のワインと一緒に飲んだり食べたりしながらおしゃべりをするのも楽しみです。

また、地域の方々が「民泊やるんでしょ」「お客さん来てるかい？」と声をかけてくれ、応援してもらっていると感じています。



## 仁木町のおすすめ

仁木町では果物狩りやトマトの収穫体験が日帰りでもできますが、町内に泊まればもっとたくさんのアクティビティを楽しんでもらえると思います。ゆっくり滞在してもらい、いろいろな体験を提供できるのが、民泊のいいところ。

僕が民泊を行っている銀山地区だけ見ても、夏は農業体験、川で釣りもでき、冬は裏山でスノートレッキングができます。町内にはスキー場もあります。スキーは近くのニセコやキロロが有名ですが、実は仁木も雪質がすごくいいんです。穴場ですね。



### マラソン+ピクニック=「マラニック」

走るスピードは、景色を見るのにちょうどいいんです。

「マラニック」は、走りながら果樹園やワイナリーなどが広がる素晴らしい景色を見て、ワインや果物などの地元の食を味わうもので、タイムを競うのではなく町を楽しんでもらうイベントです。道外からも多くの方が参加します。自分のペースで走りながら、仁木の魅力を五感で体験できますよ。

仁木といえばやはり果物とワインが有名です。6月のイチゴに始まり、サクランボ、ブルーベリー、プラム、プルーン、ブドウ、ナシ、リンゴと、10月まで楽しめます。近年は素敵なワイナリーも増え、ワインツーリズムでも大きく注目されています。5月を過ぎると、サクランボやリンゴの可憐な花をはじめ、果樹の花が一斉に咲き誇ります。秋には、町じゅうブドウのフルーティな香りに包まれます。こんな仁木での「走る楽しみ」は格別です。

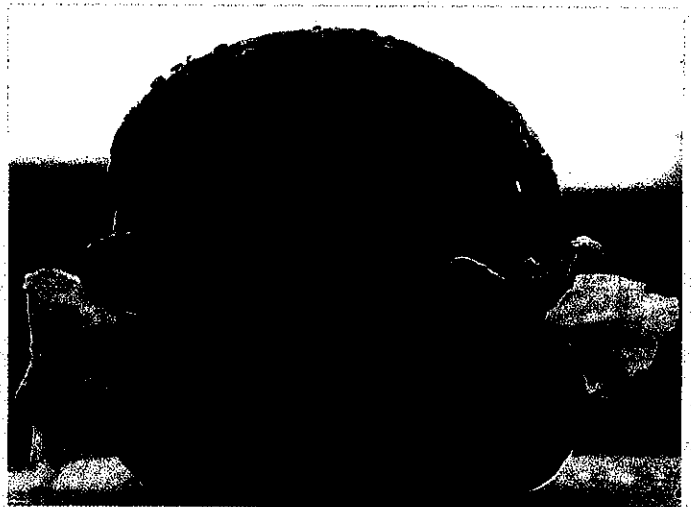
### ご当地バーガー

僕は平成29年から、地域の食材をまとめて手軽に味わえる「ご当地バーガー」の開発を手がけています。パンズは水を一切使わず、仁木町産の赤ワインだけで練り上げ、仁木町産ミニトマトと、お隣の余市町産豚肉100%のパテをはさみました。

ワイン色のパンズは、パン屋さんに協力してもらってレシピを作り上げました。パン酵母とワインはケンカしてしまうので、パンを膨らませるのが大変でした。

札幌や東京などで行われたイベントや、期間限定ショップで販売したところ、お客さんは最初ワイン色のパンにびっくりされますが、「パンがもちもちしていておいし

い」「豚のハンバーガーもおいしいんだね」と好評でした。仁木の新たな魅力に育てていきたいです。



### 今後は…

移住体験として長期滞在していただける方には、民泊を通じて仁木の暮らし、自然や産業などに触れていただき、それが本当の移住につながればとても素晴らしいと思います。アクティビティや食などを期待している方には、仁木の様々な楽しみ、喜び、感動を味わっていただき、再び仁木を訪れてもらえたらと思います。

それから、やはり「走る楽しみ」というのもぜひ発信していきたいですね。



## 自己紹介



生まれも育ちも函館です。実は、このまちを好きになったのは、民泊を始めてからなんです。たくさんのお客様から「函館はとってもいいところだね」「街並みが素敵だね」などと言っただけです。「えっ！そうなの？」と思って、一緒に函館めぐりや食事をしながら、地元の魅力に気付かせてもらいました。また、ずっと函館に住んでいるのに、最初は地域の歴史や文化を質問されても答えられなくて、これではいけないと思って勉強し始めました。自分で調べたり、観光ボランティアガイドに所属し、先輩の皆さんに地域のことをいろいろ教わっているところです。

## 民泊を始めたきっかけ

以前は、夫婦で飲食店をやっていたのですが、違う仕事をしてみたいと思っていたところ、知人から民泊を紹介されました。いざ始めてみると、お客様から「楽しかった」「うれしい」「ありがとう」などとたくさん感謝されることが新鮮で、素敵な仕事だなと思っています。

民泊を始めて生活も一変しましたし、自分自身の考え方も変わりました。最初は外国からのお客様を受け入れられるか不安でしたが、国とか肌の色とか関係なく、言葉が通じなくても、楽しいと感じることは同じなんだと気付きました。リピートしてくれたお客様にはよく「1回目はゲスト、2回目は友達、3回目は家族だよ」と気持ちを伝えています。

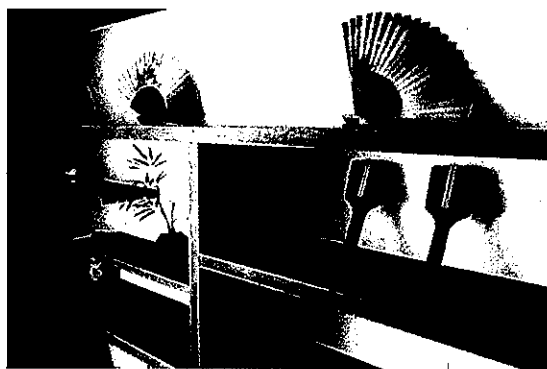


## 民泊をやってみて…

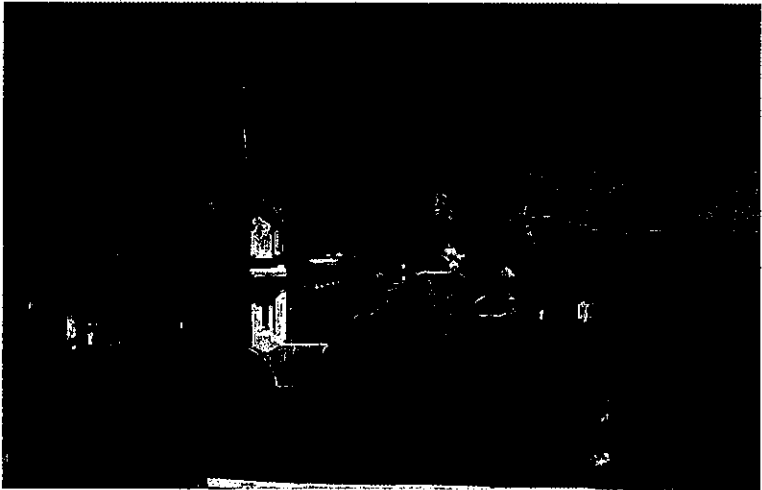
民泊を始めるにあたっては、ご近所の皆様への丁寧な説明などに努めました。お客様を見かけたご近所の方がハローと声をかけてくれたり、道に迷った方を連れてきてくれたこともあり、少しずつ信頼を築けたのかなと思っています。民泊は、周囲に隠してやっていたらダメですね。日本とは習慣や感覚が違う国の方を相手にして、言葉の壁もあるので、ホストの顔が見えるということが地域の皆様の安心につながると思います。

函館のおすすめを一緒に楽しんだりしてお客様とふれ合えることは、民泊ならではの魅力です。また、民泊事業者同士の横のつながりをつくり、函館の観光を盛り上げる仲間を増やしたいと思い、函館観光・民泊推進協会を設立しました。同じ思いの仲間に出会えましたし、民泊を知らなかった方々にも存在を認識していただけたのではと思っています。

うちのお客様は、初めて函館に来る方が多いのですが、ぜひ函館のリピーターになってほしいと思いながら、おもてなしをさせていただいています。自分が旅行する立場だったら、また来たいと思うのは、笑顔と思いやりでもてなしてくれる人に出会えた場所。リピートしたくなる観光地には、そういう「人」を育てることが大事だと考えています。ですから、お客様に接するときは「私の対応が函館の印象を左右するんだ」といつも意識しています。





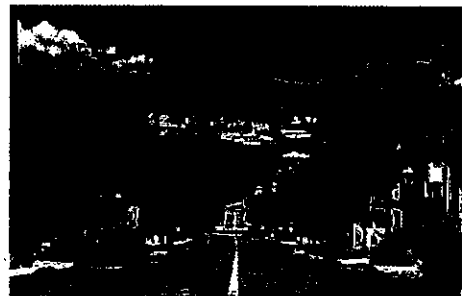


函館山の夜景、教会群、イベントなど

やはり人気なのは、函館山の夜景と、歴史を感じられる街並み。たくさんのお客様をご案内し、とても喜んでいただいています。

コンサートやマラソン大会のために来たという方もいらっしゃいます。港まつりや花火大会をご案内したり、自分が気に入っているご近所の飲食店で一緒に食事を楽しむこともあります。お店の方にも喜んでいただけます。

事前にたくさん調べて、回りきれないほどの過密スケジュールを立てて来る方もいらっしゃいます。



■ 今後は…

まだ、1～2泊のお客様が多いので、もう少し長く滞在していただけたらなと思っています。有名スポット以外も訪れたり、地元の人のお話を聞いたりして、北海道の入口として発展してきた函館のことをたくさん知ってもらいたいです。

そのためにも、もっと地域のいろいろな方々とコラボして、楽しいことをいろいろやっていきたいと考えています。

昨年10月には、子どもたちのハロウィンパーティーに協力させていただきました。もともと函館では、七夕に子どもがお菓子をもらって歩く習慣があります。パーティーに参加した子どもたちが仮装してお菓子をもらっていると、ご近所の方が「おたいていいね」と言っていて、地域と心がつながったなと感じました。その後は、大人向けにバーでのイベントもあり、新聞にも取り上げていただきました。地域におけるパイプ役になれたらいいなと考えていて、これから郷土料理などの体験メニューにもチャレンジする予定です。

最近、長年函館で暮らしている方から、昔の函館のお話をうかがう機会がありました。昔からあるお店などを見ると、なつかしい思い出がよみがえりますよね。いろいろな方々と協力しながら函館の歴史を残し、民泊を活用して古きよき街並みを楽しめるようになったら素敵だなと思います。





## 自己紹介



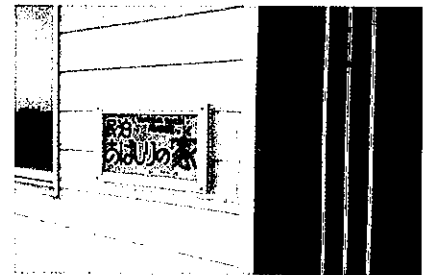
出身は埼玉県で、高校卒業後、東京農業大学のオホーツクキャンパスに進学しました。現在大学院2年生。大学の4年と合わせて、網走で暮らして6年になります。大学院では、オホーツク地域でも実現可能なグリーンツーリズムの体制整備について研究しています。

網走の第一印象は、必要なお店などが何でもあるなと思いました。大自然に囲まれつつとても暮らしやすい、魅力的なまちです。

## 民泊を始めたきっかけ

以前ニュージーランドに長期滞在したときに、バックパッカーズ（ゲストハウス）に宿泊し、宿泊客同士でバーベキューをしたり、友達になって一緒に旅したり、海外の方々と交流できる宿泊スタイルにとっても魅力を感じました。帰国してから、バックパッカーズのような場所が北海道にもあったらいいのになと思い、だったら自分が網走でできないだろうかと模索し始めました。簡易宿所の許可について調べたり、物件を探したりしているうちに、民泊なら、簡易宿所よりも小規模で手軽に始められると考え、チャレンジすることにしました。これまで暮らしてきた中で、助けてくれる方々と出会えて、そうした方々から支えていただいたことも大きかったです。

魅力は何といっても、海外の人と交流できること。自分が海外に行かなくても交流できて、無料で英会話もできて、お得感があります(笑)。



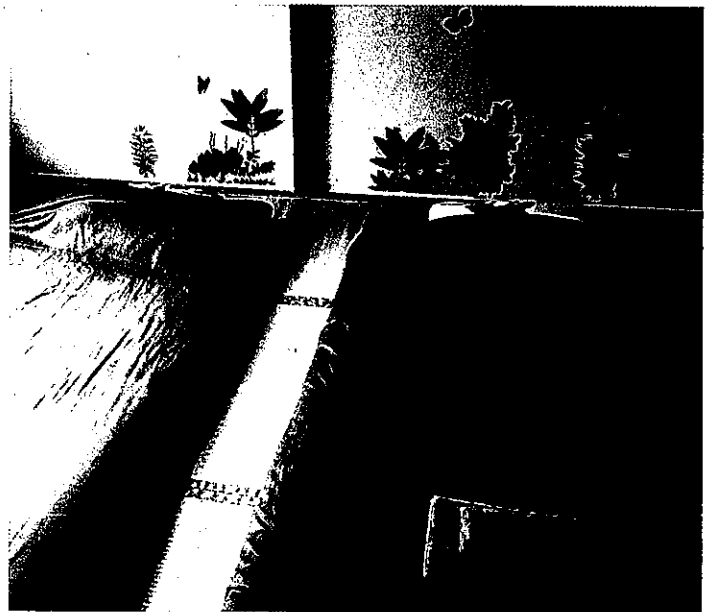
## 民泊をやってみて…

民泊を始めるにあたっては、周囲に理解してもらうことが大事だと思ったので、事前にご近所に名刺とチラシを持ってあいさつに行き、何かあったら連絡をくださいとお願いしてきました。周囲の方々からも、気にかけていただいていると感じています。お客さんの子どもが「港でフィッシャーマンにキャンディをもらったんだ」と喜んでいたときは、ああご近所のあの漁師さんかな、と思ったり。

あるとき、「コンビニで、外国人のグループが智江さんに会えなくて困っている、と言っています」と、知らない方から電話がかかってきました。慌ててコンビニに行ってみると、私が作ったチラシを店内に掲示してくれていて、それを見た親切な方が連絡をくださったとのことでした。

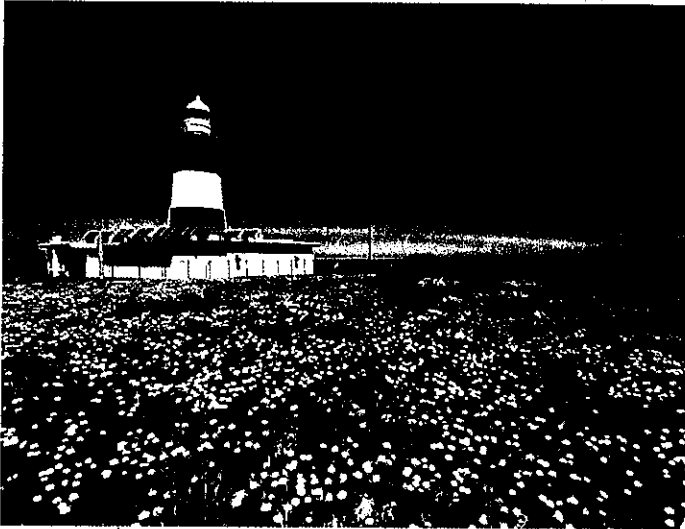
事前にお知らせしておいてよかったと思いました。

また、ある日本人のご家族は、おばあちゃんと一緒に旅行するので、階段の上り下りがない方が楽だからと、1階だけで宿泊できる私の民泊を選んでくださいました。驚きでもあり嬉しく思い印象に残りました。現状、民泊を利用するのは外国から来る方が多いですが、日本の方にもたくさん利用してもらおうことが、民泊が日本で受け入れられるポイントなのではと思っています。



### 能取岬

都会から来たお客さんは、網走の自然を楽しみにしています。映画などのロケ地にもなっていて有名な場所ですが、岬に向かう途中の道端で野生のエゾシカやキタキツネなどを見かけるだけでも面白いみたいです。

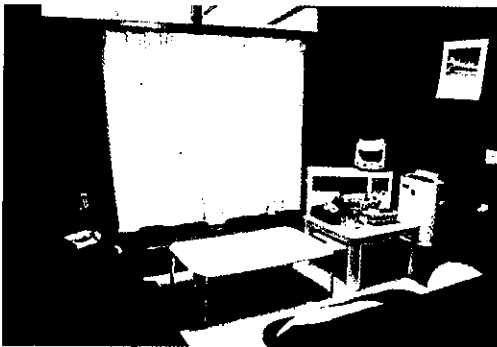


### 濁沸湖

すぐ近くに野鳥観察館があり、野鳥や景色に感動してもらえます。



### 学業との両立



学生アルバイトの定番は飲食店などですが、勤務日の希望は出せても最終的にスケジュールを決めるのはお店側なので、アルバイトをベースに自分の予定を立てることになってしまうと思います。一方、民泊なら働く日を自分でコントロールできるので、研究を生活の中心にすることができ、学業との両立は十分可能です。例えば、試験や課題の準備で忙しい時期は宿泊予約を受けないようにして、勉強に集中します。うっかり課題の提出期限直前に予約を受けてしまい、時間がない中掃除に追われたこともありましたが…。民泊は臨機応変な対応が求められるし、大変勉強になると思います。

今年が1年目ですし、私にとっては大学院卒業が大事なので、幅を広げすぎないように、まずは受け入れを一生懸命やっています。ただ、苦勞しているのは、確定申告の準備。会計ソフトを導入したり、書類を用意したり、初めてのことばかりでいろいろ作業がありますが、頑張っています。

### 今後は…

この春大学院卒業ですが、このまま網走にとどまり、この民泊を核にオホーツクの魅力の発信に本格的に取り組んでいきたいです。地域の活動や、近くの農家さん、観光施設等と連携した取組もやってみたいですし、将来的にはもう少し規模を広げて、雇用もできるようにしたいと思っています。

「卒業後も網走に住みたい」と口にする学生はいますが、卒業生の多くは大都市に出て行ってしまうのが実情です。1人でも網走に住み続ける人が増えるよう、学生の起業への足がかりをサポートできるような、後輩のアドバイザーのような立場になることも目標です。

